

氏 名 中筋 未稀

学 位 の 種 類 修士 (看護学)

学 位 記 番 号 修士第214号

学 位 授 与 の 要 件 学位規則第3条第1項

学 位 授 与 年 月 日 平成29年 3月10日

学 位 論 文 題 目 特別支援学校で医療的ケアを担う看護師の職業的アイデンティティと教育者との連携の工夫

審 査 委 員 主査 教授 足立 みゆき

副査 教授 相見 良成

副査 講師 (学内) 白坂 真紀

## 論文内容要旨

※整理番号	219	(ふりがな) 氏名	なかすい さと 中筋 未稀
修士論文題目	特別支援学校で医療的ケアを担う看護師の職業的アイデンティティと教育者との連携の工夫		
<p>&lt;目的&gt;</p> <p>本研究は、特別支援学校で医療的ケアを担う看護師の職業的アイデンティティと、教育者との連携の工夫について明らかにすることを目的とする。</p> <p>&lt;方法&gt;</p> <p>特別支援学校において医療的ケアを行う看護師 10 名に対し、インタビューガイドを用いて半構成的面接を行った。得られたデータを逐語録におこし、質的帰納的方法によって分析を行った。</p> <p>&lt;結果&gt;</p> <p>特別支援学校で医療的ケアを担う看護師の職業的アイデンティティと、教育者との連携の工夫について調査し、【学校での看護業務に戸惑い】【医療的ケア必要時に対して緊張して看護】【保護者との連携を重要視】【生徒の個性と学ぶ権利を保障】【生徒から働く活力を享受】【保護者と生徒に寄り添い家族の成長を実感】、【看護師がケアすることに教員が不慣れ】【教員に譲歩することを心がけ】【看護師としての視点を教員に伝達】【教員の受け入れが整うことでスムーズに連携】【生徒の力を発揮できるよう授業をサポート】【生徒の安全を最優先できる方法を教員と検討】【教員と役割を認識して協働】【チームを意識して働くことが有益】【学校看護師としての普遍性が強み】【学校看護師の社会的地位の改善を希望】の 16 のカテゴリーが抽出された。</p> <p>&lt;考察&gt;</p> <p>学校看護師は働き始めに【学校での看護業務に戸惑い】、【医療的ケア必要時に緊張して看護】を行っていた。【保護者との連携を重要視】し、【生徒の個性と学ぶ権利を保障しながら看護】をし、生徒とのかかわりの中で【生徒から働く活力を享受】することで【保護者と生徒に寄り添い家族の成長】を実感していることが明らかになった。また、特別支援学校で働く看護師は【看護師が介入することに教員が不慣れ】であることを察知し、教育現場であることを理解しながら【教員に譲歩することを心がけ】、【看護師としての視点を教員に伝達】し、【教員の受け入れが整うことでスムーズに連携】を取っていた。スムーズな連携が取れることで【生徒の力を発揮できるよう授業をサポート】したり、【生徒の安全を最優先できる方法を教員と検討】し、生徒のために【教員と役割を認識して協働】し、【チームで働くことが有益】であると考えていた。学校看護師として働く中で様々な葛藤を抱えているが、【学校看護師としての普遍性】を見出していることが明らかとなった。さらに、将来的な【学校看護師の社会的地位の改善を希望】していた。</p> <p>&lt;総括&gt;</p> <p>学校看護師は、生徒とのかかわりの中で親近感を得ており、保護者と共に成長を見守り、「生徒の親のような存在でありたい」と考えていた。また、学校では生徒と教員が主役であると意識しながらも、教員に流されないように看護師としての視点を伝え連携していくことが重要である。さらに、学校看護師の働く環境は整備されつつあるが、待遇や社会的地位の改善の必要性が示唆された。</p>			